

الافتتاح في 11 نوفمبر 2017
OPENING 11 NOVEMBER 2017

Louvre Abu Dhabi

اللوهر ابوظبي

2017年11月11日
エティハド航空 Y.M.

遂にオープン！

当初2012年開館予定だったアブダビのルーブル美術館が2017年11月11日に一般公開を開始したので早速初日に足を運んでみた。

入場料は大人60ディルハム(約2100円)、13歳～22歳までは半額、13歳未満は無料で入館でき、ルーブル・アブダビのウェブサイトで訪問日を指定したチケットを購入できた。勿論、当日券も現地購入できる様だが、事前に購入しておけば窓口の列に並ぶことなくスムーズに入場できそうだ。(https://www.louvreabudhabi.ae/)

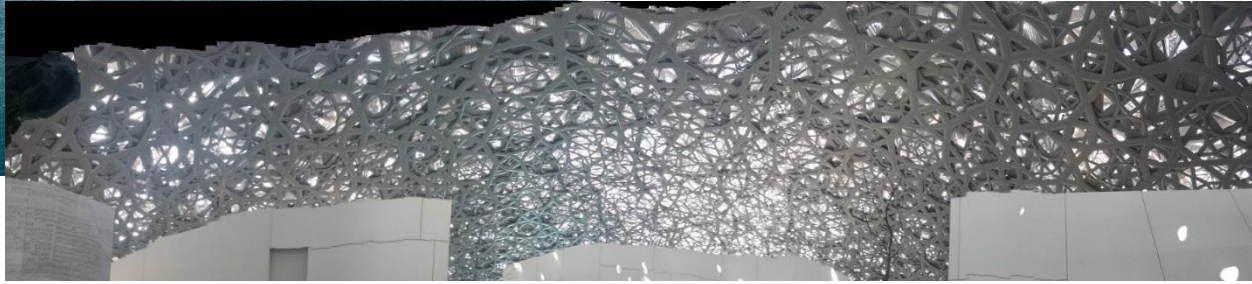
因みに月曜日は休館日、土日及び火曜と水曜は午前10時から午後8時、UAEの週末前日の木曜日と金曜日は午前10時から午後10時までギャラリーに入場できる。

ロケーションはというと、現在開発途中のサーディヤット島にあり、建設中のグッゲンハイム・アブダビやザイド国立美術館などを含めて文化地区となる予定で、島内には無類の透明度を誇るビーチや5スターホテルなどが既にオープンしている。

空港から車で30分、アブダビ中心部からは15分ほどでルーブル・アブダビに行く事ができ、ルーブルまでのアクセス道路は既に完成しているものの、島の他の施設が建設途中の為舗装道路が寸断されその先が砂地になっていたりと全ての完成までは相当時間を要する事がうかがえる。



Rain of Light

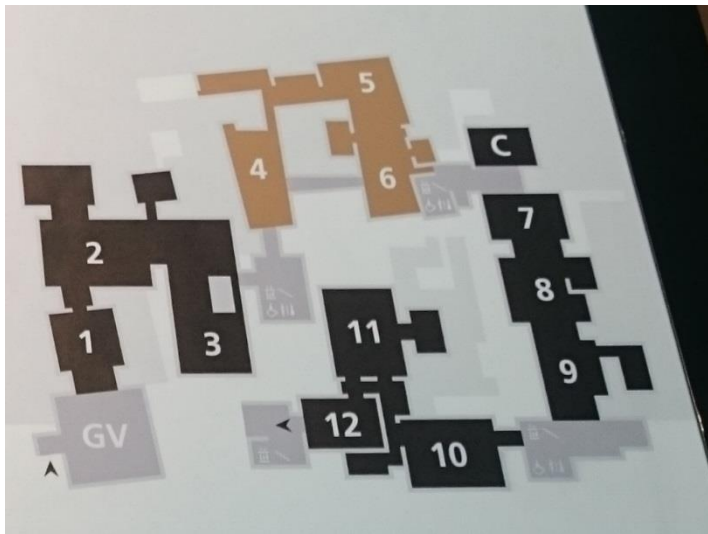


『ルーブル・アブダビの目玉って？』

ルーブルに行ってきたと言うと必ず聞かれる『目玉』？即答するなら何と言ってもその外観！フランスの建築家ジャン・ヌーヴェルの手がけた海に浮かぶ様なドーム型の建築は、‘Rain of Light(光の雨)’と言われ、ドーム型の屋根は無数の幾何学模様にカットされた約8千個のステンレスとアルミの星型を複雑に8層にも組み合わせてできており、180メートルのこのドーム下では、椰子の木陰から注ぐ様な優しい木漏れ日に包まれる事ができる。

複数の建物の連なり

ドームの下には複数の展示室が連なり、メインのギャラリーとして12室と付随する小部屋が常設展として公開されていた。他に子供向け美術館(部屋)もあり、ここでは子供たちが実際に作品を作ったり触れたりして楽しむ事ができる。



所要時間

初日ともあって、入場までにかかなりの時間を要した事を除いて、常設展をざっと一周し内外から建物を写真に収めて約3時間ほど、オープニング・ウィークが終われば入場もさほど混み合うとも思えないが、じっくりと作品を堪能したければ1日しっかり時間を取りたい。

Universal Human Values

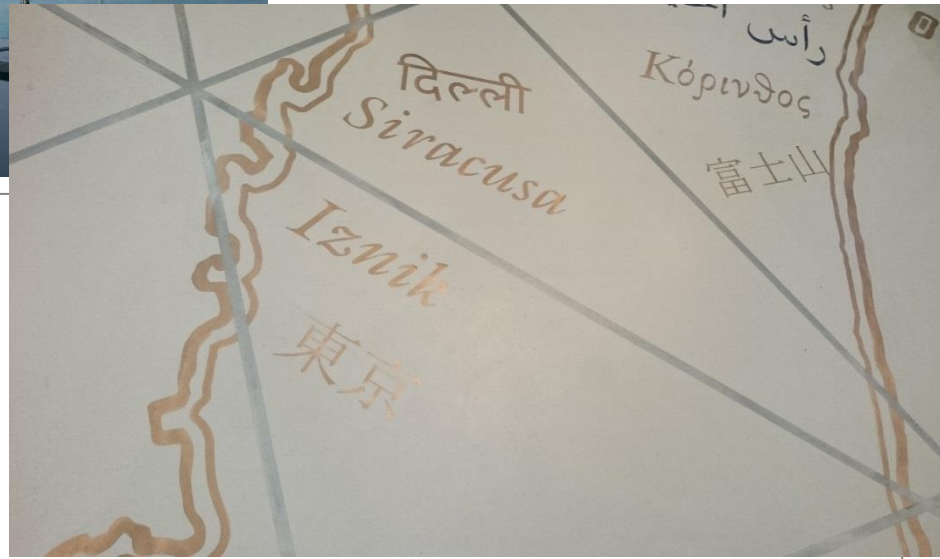


ユニークな展示スタイル

2007年に本家ルーブルと共に新しい形の文化施設を目指した取り組みがスタートし、最終的に文明や文化を超えた人類共通の物語に注目した美術館を世界で初めて開館したというルーブル・アブダビ。

正にその展示スタイルはユニークで、様々な共通項と言う視点から美術品が展示されているのが非常に珍しい。

常設展の12室は紀元前1万年前から現代までが大まかな時間軸で分けられ、それぞれの部屋が個々に共通のテーマにより展示が構成されている。



エジプシャンブルーのカバ

古代エジプトの埋葬品としてメトロポリタン美術館などでもマスコット化したカバ君をアブダビでも発見！

1. The First Villages

世界各地で様々なコミュニティが発生した紀元前1万年頃

2. The First Great Powers

銅製の武具が発達し権力者が『国』の原型を作り始める頃



ローマ帝国時代の鷹のブローチ

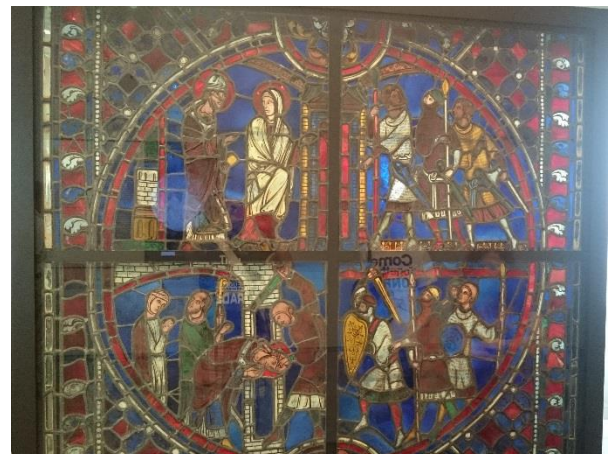
500年頃の金とガーネットの巧妙な細工のブローチ

3. Civilisations and Empires

本格的な国作りが発展しローマ帝国、モンゴル帝国などが作られた頃

4. Universal Religions

様々な『宗教』が確立された頃



聖ニカシウスの生涯を描いたステンドグラス
イスラム教以外は認められないイメージのUAEだが、
ルーブル・アブダビには仏像など他の宗教的な意義
のある作品も普通に展示されている

Original Collections



金屏風

黒船の来航を描いた1対の金屏風
アブダビ固有の所蔵品

ルーブル・アブダビ固有の所蔵品

本家ルーブルやポンビドールからの借り物展示も去ることながら、アブダビ固有の所蔵品で大々的に公開されるのが初めての美術品も数多く展示されている。そんな掘り出し物を探すのも一つの目的として有かもしれない。



エジプトの幾何学模様のドア
本家ルーブルより

アルプスを越えるナポレオン 左
(ジャック・ルイ・ダヴィッド)
ヴェルサイユ宮殿美術館より

美人画 右
(喜多川歌麿)
アブダビ固有の所蔵品

5. Asian Trade Routes

中東などを経由した貿易路での交流が加速した頃

6. From the Mediterranean to the Atlantic

航路による交易が盛んになる頃

7. The World in Perspective

欧州はルネッサンス、中東は幾何学模様が使われ始める頃

8. The Magnificence of the Court

為政者達の未曾有の競争が激化する頃

9. A New Art of Living

美術が個人、家族を対象に作成され商品化する頃





Humanity in a new Light

富嶽三十六景
(葛飾北斎)

コンポジションIX
(カンディンスキー)
ポンピドーセンターより

人類全体の繋がりを明らかに

展示品を介して人類全体に通じる共通のテーマやアイデアに焦点を絞った様々な作品を堪能できる。これら常設展の他年4回の企画展も開催予定らしく今後に期待したい。



10. A Modern World?

写真が芸術家の想像を新たにする頃

11. Challenging Modernity

近代化の波が世界を駆け巡り芸術の枠が広がる頃(20世紀)

12. A Global Stage

芸術が世界に躍進する頃(21世紀)

自画像
(ゴッホ)

オルセー美術館より



Presse pour oranges <a+b>
(ジャン・ティンゲリー) アブダビの所蔵品



笛を吹く少年
(モネ)
オルセー美術館より